

丹後に新たな米軍基地をつくらせず、 2015年を核兵器廃絶にむけた転換の年に!

—京都平和委員会第3回理事会—

「戦後70年」の節目の年を迎え、最初の理事会が2月6日、ラポール京都で開催されました。

と重点について討論がおこなわれました。

丹後におけるレーダー基地撤去と監視・告発の運動の強化とともに、運用開始がアメリカの地球規模のミサイル防衛網の一環としての機能の開始を意味することの重要性が確認され、さらに4月末より開催されるNPT再検討会議にむけたニューヨーク行動代表派遣の取組み状況が報告され、阿比留高弘さん(青年学生部委員長)を京都平和委員会として派遣することの要請があり、財政的支援も含めて支援することが確認されました。

会議では岡田会長から昨年末の総選挙の結果についての挨拶と橋本副会長の日本平和委員会第3回理事会の報告を受け、当面のた

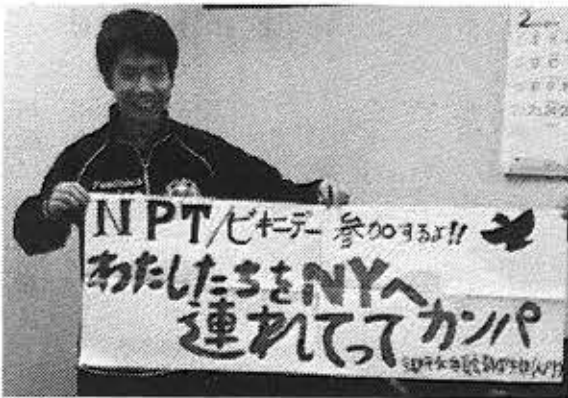
たかひの方向

また「イスラム国」による後藤さん殺害にむけて抗議するとともに、引き続き学習活動の強化の重要性も確認されました。最後に当面の取組みと各地域、組織からの活動報告がなされ、節目の年の始まりに相応しい活発な理事会となりました。

「深い人生、将来の希望」
一瞬に消し去ること、許していいわけない。世界の運動を肌で感じとって帰って伝えたい。
阿比留高弘

今回NPT再検討会議に行くことを決意した京都外国語大学2回生の阿比留といいますが、自分は、核兵器をなくしたいと思っています。その理由の一つが、核兵器の危険性です。これまで何度か原水爆禁止世界大会にも参加し、核兵器の威力とその影響を学びました。その中で一番印象に残っているのが、爆心地付近の瞬時に存在が消えてしまった家族の資料でした。一人一人にそれまで積み上げてきた本心に深い人生があり、また将来の希望があったのに、それらを一瞬でなかったかのようにならぬことを許していいわけがないと強く感じました。

もう一つの理由は、軍事より福祉に予算を回してほしい



という思いからです。自分は今学生をやっていますが、正直大学に入るときは一瞬でもためらわない人はいないのではないかと思うくらい日本は学費が高いです。奨学金もかりていますが、卒業と同時に膨大な借金を抱えることになるので、正直お先真っ暗です。親にかりていないだけで、自分だけが苦しめば済むのでまだいいですが、金のない奴は勉強するとか大学に行くなど社会からいわれているように思います。正直、自分たちの子どもにもこの状況で生きていてほしくはないです。だから軍事費などにかけるお金を教育など福祉に回したい、そのためには兵器自体を減らしたいです。その最たるものが核兵器であり、それをまずなくし、その後も禁止していきたいという思いです。

今回のNPT再検討会議に

行くことで、実際に世界の多くの人が核兵器を禁止するために努力していて、その成果も現れてきているんだということを感じ取ってきて、それを帰ってきてから正直にまわりに伝えられたらと思っています。

京都平和委員会は、2月6日の理事会で、2015NPT会議・ニューヨーク行動に平和委員会青年学生部委員長の阿比留君を代表として派遣することを決定しました。年末会費納入の際、カンパをお願いしましたが、なお引き続き皆さまのご協力をよろしくお願いいたします。

北東アジアに平和友好協力関係を築こう! 府市民のつどい

と き 3月7日(土) 13:30~16:30

会 場 ラポール京都・4階 第1会議室 (四条御前西入北側)

内 容 開会挨拶 戦後70年にあたって
(日朝協会京都府連・元会長 井口和起さん)

報告1 北東アジアの平和協力構想について (日本共産党・平和運動局長 川田忠明さん)他2つの報告

参加費 500円 主催:日朝協会京都府連合会

平和の風

■ 『経済』 2014年8月号に掲載された阿戸知則氏の論文に、武器輸出解禁(14年4月1日)に関するニューヨーク・タイムズの社説が紹介されています。「もう一つ武器輸出が生まれることが、どう世界の利益になるというのか全く不可解」「日本は武器でなく厳密な外交を通じて憲法の平和原則を輸出すべき」。まったくです。ただし、これは共同生産を通じて日本の関連技術を活用しようとするアメリカからの要望でもありました。2008年12月にそれを日本側に伝えた政府関係者は、「武器輸出三原則」と「秘密保全体制の不備」をそのための「障害」と指摘したそうです。■すでにこの二つを取り払った安倍政権は、来年の参院選後と改憲へのタイム・スケジュールに言及しました。戦争のない世界をどう実現していくか、それについての説得力ある対案を示しながら、護憲の取り組みをますます強めていかねばなりません。(1)